



梅島小だより

「尊敬し合える関係に」

校長 江原 敦史

2月19日の全校朝会で私は次のような話をしました。

ピョンチャンオリンピックで、日本の選手が活躍しています。

土曜日の競技で、羽生結弦選手と小平奈緒選手が金メダルを獲得しました。

怪我にも負けずに努力を重ねて金メダルという結果を出したことは、とても素晴らしいことだと思います。このことだけでも尊敬すべきことなのですが、この二人が競技の後に示した行動にも私は心を打たれました。

羽生選手は、ライバルのハビエル・フェルナンデス選手と互いの健闘をたたえ抱き合いながら涙を流していました。また、小平選手は、ライバルの李相花選手を抱きかかえるようにして、悲しみの中にある李選手を慰めました。

この二人に共通することは、ライバルである相手を尊重し、尊敬しているということです。

金メダルを目指す選手同士、相手に負けたくないという思いが強くなれば、仲良くなることは難しいことかもしれません。相手の欠点ばかり見てしまうかもしれません。

しかし、この二人は試合を重ねる中で、真剣に努力する相手の姿に尊敬の念を抱き、やがて親友としての関係を作ってきたのでした。

みなさんも、この二人の選手のように、相手を尊重し、尊敬できるような関係の友達を作ることができたらすてきですね。

相手のよいところに目を向けるのは簡単なようで、なかなかできることではありません。

しかし、相手のよいところに気付き、それに対して尊敬の念を抱くことができるようになれば、自分も相手もともに成長できるのではないかと思います。

そのためには、まず自分が一生懸命努力すること。

梅島小の子どもたちのいいところは、素直で、何事にも一生懸命に取り組むところです。

努力を重ねる中で、友達のよいところにも気付き、ともに高め合い、尊敬できる関係を作ることができる、そんな子どもたちを育てていきたいと思っています。

この一年間の本校の取り組みでは、課題もたくさんありました。

これらの課題をよい点に変えることができるよう、来年度も努力してまいりたいと思います。

一年間のご支援、ご協力、ありがとうございました。